

社会教育だより

編集・発行:相双教育事務所長 佐藤 由弘



ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業 入賞作品決定!!

令和元年度「ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業」の入賞作品が決定しました。相双域内からは、最優秀賞3作品、優秀賞1作品、佳作2作品、計6作品が見事入賞いたしました。12月14日福島市内で、最優秀賞と優秀賞の表彰式が行われました。佳作の受賞者には相双教育事務所長が学校に伺い、12月19日に表彰状をお渡しいたしました。

また、応募割合が高かった学校につきましては、「ふれあい学校賞」を贈らせていただきました。たくさんの応募ありがとうございました。来年度も、多くの応募をお待ちしております。

以下に、相双域内の入賞作品と表彰式の様子をご紹介します。なお、一次審査を通過した作品は、1月以降相双教育事務所ホームページに掲載いたしますので是非ご覧ください。

【最優秀賞】(復興部門)

しよっぱいな 八年ぶりの 波しぶき 鹿島小学校4年 子 大久奏音空
あの時は お座りしてた 砂の上 母 大久有加吏

ぼうはてい どんどんどん でかくなる 石神第二小学校3年 子 坂本 佑磨
海見えず すこしきみしい 波の音 父 坂本 真伸

復興を 願う駅舎に 人の波 母 葉倉 香織
福島と 未来へつながる 鉄の道 原町第一中学校3年 子 葉倉 幹久

【優秀賞】(復興部門)

ぼくたべる しゅんのさかな おいしいな 中村第二小学校1年 子 渡邊 朗吾
孫のため 辞めてためるか 魚とり 祖父 渡邊 登

【佳作】(絆部門)

人ごみで そとつないだ 母の手を 向陽中学校2年 子 佐藤 花香
いつのまに 大きくなった 我が子の手 母 佐藤かおり

流行(はや)り服 破れているよと 祖母は言う 向陽中学校1年 子 谷津田結生
得意気に のぞいた肩が まぶしいね! 祖母 森 良子



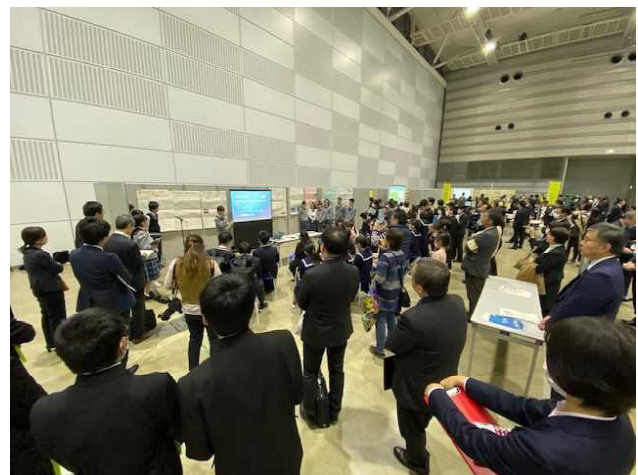
最優秀賞・優秀賞の表彰式



佳作の表彰式



ふるさと 創造学 サミット



12月14日（土）郡山市のビッグパレットふくしまで、双葉郡の小中学校、高校から約280名が参加して「第6回ふるさと創造学サミット」が盛大に開催されました。

「ふるさと創造学」は、福島県双葉郡8町村がともに取り組む、地域を題材にした探究的な学習です。「震災で子どもたちが得た経験を、生きる力に」との思いから、2014年度にスタートしました。

テーマや活動内容は町村や学校の特色やねらい、子どもたちの実態に応じて設定し、総合的な学習の時間を中心に進められています。子どもたちの主体性・協働性・創造性を伸ばし、自ら未来を切り拓く力を育むことがねらいです。

年1回開催する本サミットでは、郡内各小・中学校及びふたば未来学園中学校・高校の児童生徒が一堂に会し、これまでの学びを通じて感じたことや考えたことを、町村ごとのスペースに分かれてポスターセッション形式で発表します。

（「ふるさと創造学サミット」チラシより抜粋）

各学校、特産品を使った商品開発や地域に伝わる伝統芸能などについて学習したことを発表しました。クイズや劇など工夫を凝らしながら、生き生きとした表情で発表する姿が印象的でした。

このサミットは来年も開催される予定です。今回のサミットの様子は新聞やテレビでも報道されましたが、次回は是非一度会場に足を運び、双葉郡の子ども達の活躍をご覧ください。